

3/15  
(火)

## 獅子島で新たに恐竜の化石発見 生態系解明につながる

獅子島で、約1億年前の白亜紀中期の恐竜の骨が密集した「ボーンベッド」と呼ばれる層が見つかり、3月15日、役場で記者会見が開かれました。

昨年11月、化石採集家の宇都宮聡さん（東大阪市）が海岸の地層で多くの化石が露出しているのを発見。20㌔四方を採取して調査したところ、網状の血管が張り巡らされている特徴などから恐竜の骨と分かりました。

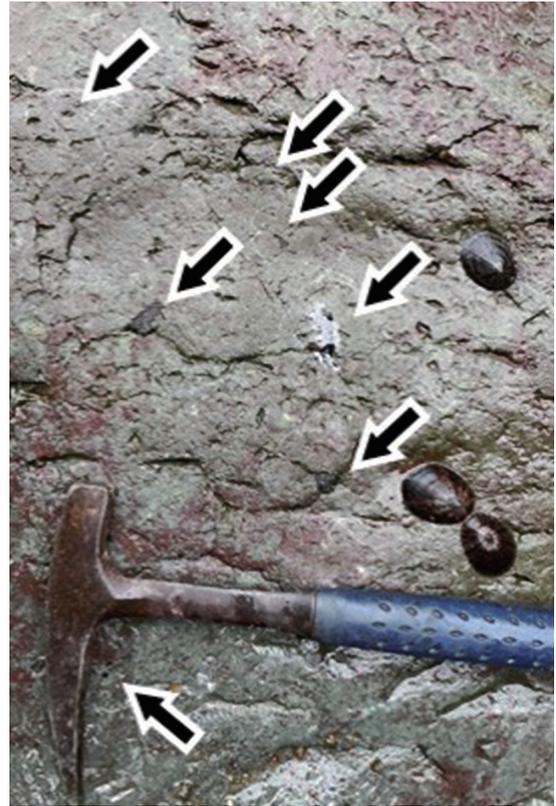


発見時の様子を話す宇都宮さん（左から2人目）



当時の獅子島のイメージ©川崎悟司

発見されたボーンベッド



ボーンベッドには恐竜以外に複数の生物の骨も入り混じっており、当時の生態系を解明することにつながる可能性があります。

宇都宮さんは「今生息していない生物を自分の手で発見できるのが化石採集の魅力。今後も町と協力しながらさまざまな種類の化石を発見したい」と述べました。

会見に出席した川添町長は「獅子島で大変な発見があったと驚いている。学術的解明と地域振興に大いに役立てられるよう協力していきたい」と話しました。

3/18  
(金)

## 平尾中でふるさと学習 歴史的価値の学びを深める

3月18日、平尾中学校（松久保謙太郎校長・34人）がふるさとと校外学習を行いました。

これは、町内の史跡を巡り長島の歴史や良さを学ぶことで、次世代の地域の担い手を育てることを目的に行われました。

当日は1・2年生28人が参加。小浜崎古墳群や堂崎城を巡り、長島の歴史的価値について学びを深めていました。

2年生の内田陽菜<sup>ひな</sup>さんは「長島に古墳があることは知っていたが、歴史的にすごいものだ今回初め

て知った。長島の良さや歴史をもっと学んで広めていきたい」と話しました。



小浜崎古墳群について学ぶ生徒ら